

1、奈良の夏・ライトアップ・撮影チャンスです

夏を涼しく、美しく。次の建造物がライトアップされます。

- ① 興福寺五重の塔 法難をくぐり抜けてきた奈良のシンボル
- ② 春日大社の一の鳥居 藤原氏の氏神。鳥居は836年の造営と言われる。
- ③ 奈良国立博物館本館 明治27年完成のフレンチ・ルネサンス風の建築。
- ④ 浮見堂 奈良公園・鷺池に平成6年建立の六角堂。ここからの大文字夜景は絶景。
- ⑤ 猿沢池 興福寺の池として知られ、七不思議がある。ここからの月は奈良八景。
- ⑥ 東大寺(大仏殿・中門・南大門) 修学旅行でお馴染みだが、夜景はド迫力。
- ⑦ 薬師寺 天平のきらびやかな奄宮造りの再現。昼とは異なる極楽の表情。
- ⑧ 仏教美術資料センター 京都・平等院になぞらえた木造建築。現代の美。
- ⑨ 平城宮址・朱雀門 平成10年復元の平城宮跡の入り口の門。
- ⑩ 平城宮址・大極殿 平城遷都1300年記念の復元。天皇の即位式の宮殿。

期日：9/25まで 時間：19時から22時まで

2、玄奘三蔵法師と奈良・薬師寺

奈良西の京の名刹薬師寺に玄奘三蔵院があり、平山郁夫先生の障壁画が収められていることを聞いていた。しかし、何故ここにそれが建立されているのか知る由もなかった。

この項は資料等で得られたものを簡略にご紹介するものである。

玄奘三蔵(法師)は602中国河南省の生まれ。629インドを訪問し、仏舎利・仏像・経典等を携えて645に帰国。仏典の漢訳などを行う。664玉華宮にて没し白鹿原に埋葬。669興教寺に改葬。著書「大唐西域記」。三蔵の旅を素材として中国明代に「西遊記」が生まれた。

880頃 黄巢の乱により興教寺玄奘塔が破壊され、頂骨は各地を流浪。1027に長安から南京に運ばれて奉安された。さらに幾度遷。昭和17年(1942)南京駐在の日本軍高森部隊が南京中華門外で石棺を発掘。発見された玄奘頂骨と一切の副葬品は当時の中国南京政府に引き渡された。しかし、中国の国内事情切迫のため、発見者の日本へ分骨する提案がなされ、昭和19年(1944)玄奘頂骨が日本へやってきた。が、日本も戦況不利の混乱期で、安全確保のために、頂骨は、当時の日本仏教会の事業部長(埼玉県岩槻)の寺名が、長安(西安)の玄奘の寺と同名の『慈恩寺』であったため避難先となる。さらに数年後。玄奘三蔵と同じ「法相宗の大本山」である奈良薬師寺が、玄奘の頂骨を正式に祀る希望を表明し、玄奘三蔵院を建立して迎え入れた。戦火による長い長い流転のあとの安住地である。平山郁夫画伯による「仏法東漸」の壁画の完成は、平成12年(2000)12月のことであった。

3、新古墳の発見

「新古墳」という記事にはいささかの違和感があった。しかし、古墳ではないところが古墳と判ったのだから、やはり、新古墳でしょうナ。

上空からレーザー光を照射して地表の凹凸を計測する装置が開発され、これで地図を作成し、新古墳の発見になったという。橿原市南部で、現状は竹やぶ。削り取られて不明確なため、古墳とは考えられずにいたが、調査により全長41、72mの前方後円墳と判明。すぐ近くに138mの天皇陵もあり、それとの関連も重要になるという。この近辺では418基の古墳が確認され方墳の上に円墳が乗るといふ珍しい形も見つかったという。スグゲー。

一方、科学が旧来の伝承に疑問を投げかける例もあって、住民の伝承も丸まま信じられないらしい。奈良は古墳だらけ。古墳群とはお墓のマンションか？ 昔の人は埋葬地捜しとお墓作りで生前から大変だったンでしょうナ。古墳を作った庶民の墓は？

4、斑鳩の銘菓『奈良祥樂 大仏饅頭』 www.ueshima-net.co.jp/ TEL0745-74-1111

外はカリントウ中はこし餡。形は大仏さんの髪の毛(ラホツ)というお菓子。わが家から約100mの『株式会社 植嶋』さん製造の奈良銘菓です。ちょっと昔の鳥坂「揚げ饅頭」が思い出されるけど、こちらは形も味も上品な仕上げ。お眼に留まったらぜひご賞味あれ。

5、柿食えば 冷菓「柿こーり」

“柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺”の句は修学旅行の中学生にも良く知られた正岡子規の句だが、奈良は全国第二の柿生産県。その柿どころが考案した冷菓が「柿こーり」。柿を名産の葛餅で包み、一気に凍らせた夏向きのお菓子。

葛で包まれて冷凍されているため、最初は「白」。解凍が進むと次第に柿色となり、柿と葛の甘みが融和して独特の食感になる。命名が良い。若者は歩きながら食べる。

問い合わせ：奈良吉野いしい(五條市) www.47club.jp/shop/g/g29M-000003h0263/

その昔、清水では「冷凍みかん」なるものが駅で売られて名物でしたが……

6、町中の不用意な騒音

大和郡山城に近い菓子老舗の『菊屋』は、旧家の佇まいや、天井一杯に並べられた先祖伝来の菓子の木形、そこから生まれる銘菓の数々など。私にはとても優しい所である。

だが、その情緒を打ち砕くように警笛を鳴らし続けて通る車が多く、一方通行で人と車が共用している狭い道を「そこ退け！そこ退け！」と鳴らして「うるさいヨーオ！」

80年代の北京の王府井や上海の南京路の雑踏が思い出される。当時の中国では車は絶えず警笛を鳴らして走行し、通行人も車の前を平気で横切っていた。韓国にも似た風景があったね。いや、戦後間もなくの京都市電も、絶えずベルを鳴らして「チンチン電車」と呼ばれていたっけ。今の時代、アクセルよりもブレーキに神経を使えば警笛は必要がないはず。時代遅れのドライバー君よ、歴史があり叙情ある小さな町は静かに通れヨ。

7、奈良新聞の読者文芸から

田植え終え 月静寂に村眠る
また一人 友逝き梅雨のそぞろ寒
黄砂降る 神の山にも容赦なく
僧兵の法螺に始まる薪能
道端に沢蟹歩む 奥飛鳥
青葉木菟 龍田の森の主となり

梅雨苔に 御廟鎮もる鑑真忌
大和富士 近くに見えて梅雨晴れ間
松蟬の鳴きだしそうな法隆寺
白鳳の風行く回廊 イカル寺
巻向やヒミコ探しのテント村
解禁の吉野の川やサクラ鮎

[五行詩]

玉葱も馬鈴薯も	若い娘
刈り取られて	電車の中で
素裸の畑に	はばかりぬ大欠伸
跳ねてる	失われた
六月の雨	美とエチケット

8、奈良の鹿 1095頭・交通事故死 96頭

奈良のシンボルの鹿。出産が終わり、7月現在の奈良公園の鹿の総頭数は1095頭で、昨年より1頭減。しかし、交通事故は158件と増え、そのうち96頭が死亡した。原因は出勤時間帯の車の速度違反事故が最も多いという。これまで本稿でも何度も指摘したが、「鹿にも（当然ながら人にも）優しい運転」が望まれる。

9、おさかな川柳コンテスト（作品募集）

魚に関する川柳を募集しています。はがき・封書・メールで応募。一人3作品まで。子どもの部と大人の部あり。締切：10月8日(土) 主催：奈良県魚食普及競技会
応募と問合せ：630-8686 奈良市法華寺町2-4 奈良新聞社企画部 0742-32-2112

10、渡辺さんは大阪出身？

その昔、11世紀ころ、京大阪から熊野詣に行く際に、東西に流れる大川(旧淀川)に舟で行く渡し場があって「渡しのほとり」と言われていた。そこに住む嵯峨源氏の人たちが『渡辺』と名乗るようになり、南北朝時代から室町時代にかけて全国に広がって、今では全国第五位(推定100万人)の渡辺さんがいるという。

お引き立て下さった渡辺校長。お隣のお兄ちゃん「清水艦砲射撃」の著作がある渡辺ハルオさん。静岡交響楽団で共に苦勞した渡辺ミズホ先輩。書家の墨仙さん。同級の渡辺君。佐渡の渡部さん。等々。すぐに思い出せるワタナベさんだけでも相当数居られる。

秀吉の大阪城築城と共に昔の渡辺は北西に移動させられ、現在地は大阪府中央区久太郎町4丁目あたりを言い、町村合併の波の中だが「渡辺町」が残されているという。

12、あわや大惨事

つい先日、法隆寺の西100mの焚き火が飛び火し、山林火災となって大騒ぎ。県警へりも出動して消火協力。どうやら大事に至らずに済んだが・・・

今から440年前にも、法隆寺門前でドンパチと鉄砲を撃ち合う戦争があり、あわや法隆寺焼失の大騒ぎだったという。

京都中心の「応仁の乱」が日本全体を混乱に陥れて、戦国時代になった頃、斑鳩辺りを支配していたのは、興福寺系列の筒井順慶と、信貴山城を築いて大和の支配を狙う松永久秀で、永禄年間の終わりころ「並松(なんまつ)の戦い」が勃発する。

緒戦は寺院側の筒井氏が松永軍を破って西方へ押して行くが、法隆寺脇に伏せてあった松永軍が退路を塞いだために激戦となり、危うく法隆寺が・・・ということになった。

並松とは法隆寺参道に続く地で、現在は町役場・斑鳩小学校・中央体育館・商店街などがあり、観光の人が行き交うところである。

松永久秀という男。主人を押しつけて棟梁となり、將軍足利義輝を殺害。東大寺の大仏殿を焼き、最後には立て籠もった信貴山城も焼いて聖徳太子ゆかりの寺を消滅させた。

新聞解説欄によると「古都法」や「文化財保護法」の成立以前には、目茶苦茶な人がいて「法隆寺が悪い、法隆寺を壊せ」とデモって歩いたという。法隆寺近辺の自分の所有地で儲けようとする、妙な郷土・狭い利己主義の人たちだったらしい。

しかし、伝統を守るのも簡単ではない。私が毎日のように通る龍田街道の人達は「どのように暮らして居られるのか」と不思議である。古い建築群を維持し営業するのは無理、普通に生活するのも大変であろう。国道25号線は騒音激しく、歩行者通路は不備。商売をしてもお客は来ず駐車用地もない。時折通行する観光客が拝観料を払うはずもない。

いずれにせよ、文化財を守り育てていくのは口で言うほど簡単ではない。

暑中お見舞い申し上げます

お暑いおり、皆様にはご健勝にてお過ごしでしょうか、お伺い申し上げます。

当方、転居以来、四カ月となりました。どうやら無事に過ごしております。

影山 建樹



(奈良新聞より)